

あぐりめ〜る新川

第47号(平成22年6月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765)52-0268
(0765)52-5192
農業普及課 (0765)52-0094
(0765)52-0945
(FAX) (0765)52-3115

地域農業を担う人材の育成に取り組んでいます

農業体験を通して地域農業への理解を深める活動や地域活性化、地産地消の推進、安全・安心な農産物の生産など、指導・支援に努めています。



リンゴの摘果体験学習



女性農業者を対象とした講座



田植え体験学習



中山間地域での山菜販売支援

水稻の水管理（中干し以降）のポイントについて

～適切な水管理で高品質な米に仕上げ、カドミウムもシャットアウト～

高品質な米づくりのためには、今後、適期中干しによる過剰な籾数の防止や、出穂後の湛水管理による稲体の活力維持など、適切な水管理を行うことが重要になります。さらに今般、食品衛生法が改正され、米のカドミウム含有基準が厳しくなりました（表1）。基準値を超える米は、販売・加工が禁止されるため、カドミウムの吸収を抑える栽培管理が重要です。カドミウムは、出穂期以降の湛水管理によって吸収を効果的に抑えることができます。「安全・安心」な米づくりのためにも適切な水管理を行うことが必要となります。

表1 米のカドミウム含有基準値の改正概要（施行：平成23年2月28日）

区分	改正前	改正後
食品衛生法の基準	玄米 1.0ppm 未満	玄米・精米 0.4ppm 以下

ポイント① 中干しは適期に実施！

過剰分げつを抑制し、稲体や根の健全化を図るとともに、出穂後の湛水管理に備えて収穫期の地耐力を確保するため、本格的な梅雨に入る前に遅れずに中干しを実施しましょう。

ポイント② 中干し後から出穂期までは、間断かんがいで健全な稲体と地耐力を維持！

中干し後から出穂期までは、稲体に必要な水分と酸素を供給するとともに、中干しで確保した地耐力を維持するため、間断かんがいを行いましょう。中干しとその後の間断かんがいで収穫期に期待する程度の硬さにしておくことで、出穂後20日間の湛水管理を実施しても、コンバイン作業をスムーズに行うことができます（図1）。

ポイント③ 出穂後20日間は湛水管理を徹底！

登熟後半まで稲体の活力を維持するとともに、カドミウムの吸収を抑制するため、出穂後20日間は湛水管理を徹底しましょう。土壌中のカドミウムは湛水して還元状態にすると稲に吸収されにくい形態になります。カドミウムが穂に移行しやすい出穂後20日間に湛水管理を行うことで米のカドミウム濃度が効果的に低減されます（図2）。湛水管理後は、土壌条件に応じて、適正な水分が確保されるよう収穫5～7日前まで間断かんがいを行いましょう。

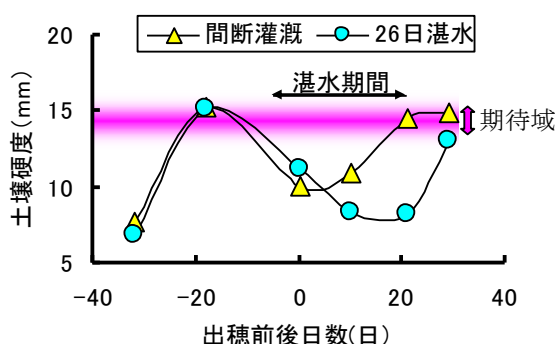


図1. 水管理と土壌硬度の推移

- * 富山農技セ(2007)
- ** 土壌硬度は平面型山中式硬度計による測定値
- *** 湛水処理期間(出穂前後日数)：-5日～+21日

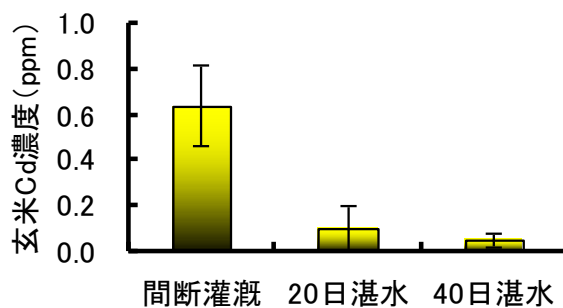


図2. 水管理と玄米カドミウム濃度

- * 神通川流域の産米流通対策地域(玄米 Cd 濃度 0.4～1.0ppm)として特定された具有施設ほ場での試験結果(富山農技セ、供試品種：コシヒカリ)

園芸生産の拡大に向けた取り組みについて

本県の園芸生産は、県内野菜流通に占める県産の割合が約13%と低く、県内消費者の地場産農産物への関心が高まっている中で、今後一層の生産拡大が求められています。このため、県では、本年度から「1億円産地づくり支援事業」をスタートさせ、主穀作経営体の複合化等による園芸生産の拡大に努めることとしています。

1 1億円産地づくり支援事業について

この事業は、県が地域のリーダーである農協の取り組みを支援し、野菜等園芸作物の大規模産地の形成を加速することを目的としており、戦略品目の選定や販売戦略の策定・実践を行うソフト事業（1億円産地づくり推進事業）に、管内では、「JAみな穂」「JAくろべ」「JAうおづ」が取り組むこととしております。

2 新川管内での有望な品目紹介

具体的な戦略品目の選定や販売戦略の策定等は、今後各農協で検討することになりますが、ここでは、管内で生産拡大が期待される有望な品目、経営試算を紹介します。

(1) 白ねぎ<短葉性ねぎ「ねぎたんJ」>

白ねぎは、単位面積当たりの売り上げが大きく、管内でも作付けが多い品目です。近年は長さが40cmのコンパクトな短葉性ねぎ「ねぎたんJ」が黒部市、魚津市で栽培されています。消費者にとっては、短いことで買いやすく、使いやすいメリットがあります。生産者にとっては、従来の「白ねぎ」に比べて、労働時間が短く、単位労働時間当たりの所得が高いなどの魅力があります。



(2) さといも

JAみな穂管内では、主穀作経営体等の複合化品目として、さといもを振興しており、平成22年は約4haが作付されました。機械化作業体系が確立しており、労働時間が少ない他、収穫後の貯蔵により、冬期間の労力を活用した出荷が可能等のメリットがあります。

(3) もも

ももは、ここ近年、果樹で一番面積が増えている品目で、特にJAみな穂管内では、4.6haと急激に面積が増加しています。県内産ももは、輸送を考慮して、適熟前の果実を収穫している県外産ももと異なり、樹上で熟させて収穫するため、みずみずしく甘みがあるのが特長で、稲刈り前の8月までに収穫・出荷が可能です。



表 品目別10a当り粗収益、所得、労働時間の目安(県試算)

	白ねぎ	ねぎたん	さといも	もも
粗収益(千円)	897	864	313	880
所得(千円)	310	260	142	430
労働時間(時間)	430	330	90	250

3 戦略品目選定・生産拡大のポイント

戦略品目の選定や生産拡大に当たっては、実需者・消費者ニーズの把握等による「販路や販売戦略」を明確化した上で、立地条件や活用できる資本装備等も踏まえ、どのような品目・作型を推進するかがポイントになります。当農林振興センターでは各農協の戦略品目の選定や販売戦略の策定等に対して、積極的に支援を行うこととしています。

メール情報及びFAX 情報受信者の募集について

1. 携帯電話へのメール情報受信者の募集

メール情報は、認定農業者や法人などの担い手の皆さんに、①気象情報、②水稲の生育調査状況、③農作物管理情報を年15回程度、携帯電話への配信を行います。



2. FAX 情報受信者の募集

FAX情報は、認定農業者や法人などの担い手の皆さんに情報を有効に活用していただくため、これまでのメール情報では送付できなかった生育グラフを追加し、本年6月末よりFAXでの情報提供を行います。

◎メール情報の配信を希望される方は、メールアドレスの登録をお願いします。

◎FAX情報の受信を希望される方はFAX番号の登録をお願いします。

メール情報及びFAX情報の登録先：経営支援班 村崎 TEL 0765-52-0268
FAX 0765-52-3115

(見本)

FAX 情報受信者 殿

新川農林振興センターFAX 情報 NO.1 を送付します。



水稲(移植、品種:コシヒカリ)の生育概要(田植日5月12日)

生育観測ほ調査結果の概要(7月21日)

◎7月21日現在のコシヒカリの生育は、5月12日頃の田植えで、減数分裂期を迎え、草丈80.4cm、1株当りの茎数は22.6本、葉齢は13.2葉、葉色は4.0となっています。平年に比べ草丈はやや短いものの、曇雨天の影響から葉色はやや濃くなっています。なお、出穂期は8月5日頃と見込まれます。

◎2回目の穂肥は、1回目の穂肥施用後7日目とし、穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導して下さい。また、出穂期までは、間断かん水に努め、フェーン時には湛水して下さい。

